

予算第23号議案より質疑致します。

10 消費喚起による経済回復目的のプレミアム付き商品券発行について

県・市協調事業である今回のプレミアム付き商品券の対象は、商店街・小売市場に限定されています。市内218ある商店街・市場団体の中で、例えば西区では3団体、北区で10団体しかないなど、地域偏在が大きいこと。また、商店街の中にはスーパーやドラッグストア、日用品店等、コロナによるステイホームで増収になった店舗もある一方、経済的打撃を最も受けている殆どの飲食店は、商店街に入っていないため今回のプレミアム商品券の利用対象外となっています。

目的が新型コロナウイルスの影響を受けた神戸経済の維持・回復であるにもかかわらず、非常に不公平であり、経営の危機に陥っているのに恩恵を受けられない店舗にとっては大きな不満となっています。

今回のプレミアム付き商品券は、兵庫県が制度設計しており、「さびれていく商店街を中心とした支援」と県の担当者から聞きましたが、商店街がさびれているのはコロナ以前の問題であり、今回のプレミアム付き商品券が商店街や市場の中でも、せめてコロナの影響により減収になっている店舗救済に直結することを願います。

そこで、プレミアム付き商品券の予算3億円の中で、事務費が約1億円と試算されていると聞きましたが、出来る限り事務費を圧縮する工夫をし、その分発券枚数を増やすことで市民の暮らしを助けるとともに消費を喚起し、コロナ禍で困窮している店舗の売上げ向上に結び付く様に、制度内で費用対効果を最大にして頂きたいと考えますが、ご見解をお願いします。

（岡口副市長）

兵庫県が4月補正で策定した制度を県市協調で実施するものであり、商店街・小売市場を対象としているが、これは商店街等が単なる買い物の場であるだけでなく、賑わいの場・地域コミュニティの核として安心安全に繋がる重要な機能を有している事、そして緊急事態宣言により不要不急の外出自粛に伴い、商店街の店舗が閉店している状況にあっても、地域の安心安全のため街路灯を点灯し続ける、また経路や防犯カメラの維持管理を行っていただく取組みに必要なコストを負担して頂いたこと、こういったことを総合的に勘案し、新型コロナウイルス感染防止によって影響を受けた商店街を支援しようとするものである。一方で、新型コロナにより大きな打撃を受けた飲食店については、持続化給付金、経営継続支援金の給付に加え、本市の独自事業としてチャレンジ支援補助金を大幅に拡大するほか、先払い利用券による飲食店の支援、また店舗家賃負担軽減補助金、オンラインストア支援など幅広い事業者が利用可能な事業を実施しようとしているところである。事務費については、プレミアム付き商品券が2億、事務費が1億の積算となっており、これは過去の商品券事業の事務費率を参考に概算で積算したものだが、出来るだけ抑制し、効率的な執行にあたるとともに、事業費全体としても事業の趣旨に沿うよう、制度設計を的確に進めていきたい。

（上原）

私は、事務費の事についてしか聞いておりませんので、答弁は気を付けて頂きたいと思います。今回のプレミアム付き商品券の事務局は、神戸市商店街連合会と神戸市小売市場連合会を予定していると聞きましたが、参加店舗を「新型コロナウイルスの影響で減収になった店舗」として募集すべき事と、また事務局が不公平な参加店選定をしないことを、市として徹底して頂きたいと思いますが、いかがでしょうか？

（岡口副市長）

この度の制度について縷々申し上げたのは、やはり議員が勘違いされたから改めて申し上げたところで

ある。もう一度も申し上げますが・・・（私が勘違いしていないので不要と伝える）

（上原）

決して不公平な参加店選定にならないようにお願いします。

20 新型コロナウイルスの感染警戒期における戦略的サーベイランスの実施について

中央市民病院と共同で抗体保有調査を行うにあたり、より詳細な分析ができるよう、対象者の工夫が必要と考えます。現在は外来患者1000人の血液サンプルを使用されていますが、例えば、献血で採取した健康な人についても検査対象とすることで幅広い比較分析が可能となる取り組みを実施してはどうでしょうか？また、抗体検査の精度を把握するには、市内感染者285人の抗体検査をするのが一番だと思います。抗体保有者の分布を知ることにとどまらず、分析結果を基に第2波、第3波に備え、神戸発の取り組みにつなげるためにも、ご見解を伺います。

(寺崎副市長)

既に行われた中央市民病院1000人の血液サンプルを、別の血液サンプルに置き換えることで、その変化を見ることで市内の蔓延状況を把握しようとするものである。私どもが保有していない献血のサンプルなどを利用するあくん替えはない。ご指摘の様に感染された方の抗体検査は、陽性になることは目に見えているので、する意味は感じていない。

(上原)

前回の抗体調査の陽性率が3.3%でしたが、この結果は、厚生労働省が行った東京、大阪、宮城の結果いずれも0.1%前後と比較すると30倍高く、この原因が、クラボウ社の検査キットの特異性が低いからなのか、風邪のコロナウイルスを拾ってしまっている交差反応なのかという検査キットの精度の問題、あるいは何らかの健康に問題があって中央市民病院を受診した患者だからか、検証をしない理由が分かりません。2回目の抗体調査（～R2、6.15）は、精度の高いアボット社の検査キットも併せて使用するとありますが、もし今回の結果も他都市調査よりかなり高かった場合、検査対象者の偏りの問題という可能性が高くなりますので、健康な人の抗体検査も検討して頂きたいと思います。

ソフトバンクが実施した4万人の抗体検査では、一般の人の陽性率が0.23%、医療従事者1.79%という結果が出ています。神戸市が行う抗体検査は、定期的なトレンドを見るための監視体制との事ですが、基礎データ収集で終わってしまったのは、医療産業都市である神戸発の取り組みとはなりません。そこで、「抗体保有者は新型コロナウイルスに感染しないのか」という研究は、国立感染症研究所などで実施されていますが、医療産業都市である神戸市でも、大学や研究機関と連携して実施すべきと考えますが、いかがでしょうか？

(寺崎副市長)

ご趣旨が分かりかねるが、抗体検査を行う際のキットは、偽陽性の問題が指摘されています。そのために感染者の方について検査をする意味はないと考える。前回3.3%という結果を、今回新たな検査キットを加えて、検査キット間での違いについても検証可能であることを期待している。

(上原)

クラボウ社の検査キットですが、偽陽性0＝特異性100%という風にカタログに書いてあったので申し上げます。

ワクチン接種が出来るまでに、再び新型コロナウイルス感染症拡大期が訪れた場合、前回の様に経済活動をストップさせないで済むようにすることが、行政の務めだと思います。